

京都書房「国語表現」(国表303)年間指導計画例(シラバス案)

科目	国語表現
単位数	3単位(105時間)
指導学年	1～3学年
使用教科書	京都書房『国語表現』
副教材等	京都書房『国語表現 準拠学習ノート』
科目の目標	国語で適切かつ効果的に表現する能力を育成し、伝え合力を高めるとともに、思考力や想像力を伸ばし、言語感覚を磨き、進んで表現することによって国語の向上や社会生活の充実を図る態度を育てる。
生徒の実態と指導の重点	(各校の実情に応じて記入する)

評価の観点	評価の趣旨
関心・意欲・態度	国語で伝え合力を進んで高めるとともに、国語を尊重してその向上を図ろうとしている。
話す・聞く能力	目的や場に応じて効果的に話し的確に聞き取ったり、話し合ったりして、自分の考えを深め、発展させている。
書く能力	相手や目的、意図に応じた適切かつ効果的な表現による文章を書き、自分の考えを深め、発展させている。
読む能力	
知識・理解	言葉の特徴やきまり、役割などについての理解を深め、知識を身に付けている。

学期	月	教科書の単元	領域(時間)			主な学習の目標(評価規準)	評価の観点				評価方法		
			話す・聞く	書く	読む		関心・意欲・態度	話す・聞く能力	書く能力	読む能力		知識・理解	
一学期	4月	ステージ1 表現のイメージをつかむ											
		(一)話すということ	4			・自分の考えを話すことの基本的な態度や心構えを理解できる。 ・他人の話の話を正しく聞き、話の内容やポイントを理解できる。	○	◎			○	・ワークシート ・発表 ・相互評価	
	(二)書くということ	4			・目的・相手・形式に合わせた文章の大切さを理解できる。 ・目的や相手に合わせて文章を書こうとすることができる。	○		◎			○	・ワークシート ・作品 ・定期テスト	
	ステージ2 表現のスタイルを知る												
5月	(一)的確に話す	4			・自分の伝えたい内容を、話し言葉で適切に相手に伝えることができる。	○	◎					・ワークシート ・相互評価	
	(二)記録・説明の文章を書く	8			・内容を正確に記録することができる。 ・自分の記録に基づいて、内容を書き言葉で正しく説明することができる。	○		◎				・ワークシート ・定期テスト	
6月	(三)意見文を書く	8			・自分の意見を明確に文章で表現することができる。 ・読み手の理解や共感が得られるような構成や内容を組み立てることができる。	○		◎				・ワークシート ・作品	
7月	(四)通信文を書く	10			・さまざまな種類の通信文についてその特質などを理解できる。 ・さまざまな種類の通信文を書くことができる。 ・それぞれの手段にふさわしい文章や表現を工夫できている。	○		◎				・ワークシート ・作品 ・定期テスト	
二学期	9月	ステージ3 表現のテクニックを磨く											
		(一)調査したことを発表する											
		1 調べる 情報の収集	1	1		・テーマを決めて情報を収集する手段について理解する。	○	○				◎	・ワークシート ・定期テスト
		2 要約をする	1	1		・必要な情報を的確に要約する方法を理解する。 ・文章や語られた内容などを、正しく要約することができる。	○					◎	・ワークシート ・定期テスト
		3 インタビューをする		2		・聞きたい内容にふさわしい質問をすることができる。 ・相手の話をよく聞き、それを第三者に正しく伝えることができる。	○	◎	○				・取り組み ・作品
	4 グラフ・表・図解の利用	1	1		・情報のさまざまな表現手段とそれらの持つ特色を理解する。 ・言語情報と非言語情報とを相互に生かした形で効果的に活用できる。	○		◎	○			・ワークシート ・定期テスト	
	5 プレゼンテーションをする		4		・収集した情報を効果的に伝えることができる。 ・ハブリック・スピーキングに配慮しつつ、人前で発表することができる。	○	◎	○				・作品 ・発表 ・相互評価、自己評価	
	(二)討論をする一話し合う												
10月	1 討論する目的 2 討論するための注意点	2			・討論の目的・方法・注意すべき点について、正しく理解する。	○	○				◎	・ワークシート ・定期テスト	
	3 ディベートをしてみよう	6			・立論や質疑を通して、論理的な思考と説明を進めることができる。 ・異なる意見を踏まえて、合意形成や問題解決を図ることができる。	○	◎					・発表 ・相互評価、自己評価	
11月	(三)報告の文章を書く	6			・目的に応じた方法や対象を吟味し、正しく調査することができる。 ・調査内容や分析を、的確に文章で表現できる。	○		◎				・ワークシート ・作品 ・相互評価、自己評価	
12月	(四)小論文を書く 小論文とは 小論文の基本構成 小論文の表現 さまざまな小論文を書く	14			・小論文の構成や効果的な表現について理解する。 ・対立意見を想定した上で、説得力がある小論文を書くことができる。 ・資料を理解しそれに対する自分の考えを論理的に書くことができる。 ・原稿用紙の使い方を理解し、実際に正しく使うことができる。	○		◎				・作品 ・定期テスト ・相互評価、自己評価	
二学期	1月	ステージ4 表現のルーツを知る											
		(一)言葉の歴史・文章の変遷 参考 古典の文章	2	2		・日本語の歴史について理解し、史的観点から日本語の特色を理解する。 ・古典の文章と現代の文章の共通点や相違点について理解する。	○	○	○			◎	・ワークシート ・定期テスト
	(二)日本語表現の特色と異文化	1	2		・他の言語との比較を通して、日本語の特色を理解する。 ・自分の言語環境を観察し、日常生活の中から日本語の特色を探し出すことができる。	○	○	○				◎	・ワークシート ・定期テスト
	ステージ5 創作者になろう												
	2月	(一)詩歌をつくる	2	3		・自らの発見や感動を的確にとらえ、自分の言葉で詩歌を創作できる。 ・詩歌の内容にふさわしい朗読をすることができる。 ・適切な表現や効果的な表現について工夫し、それらを正しく使うことができる。	○	○	◎				・作品 ・相互評価、自己評価
(二)随想を書く			7		・散文の特色を生かしながら、自分の考えを随想として創作できる。 ・適切な表現や効果的な表現について工夫し、それらを正しく使うことができる。	○		◎				・作品 ・相互評価、自己評価	
3月	(三)小説を書く		8		・構成や展開を組み立てながら、自分の主張を小説として創作できる。 ・適切な表現や効果的な表現について工夫し、それらを正しく使うことができる。	○		◎				・作品 ・相互評価、自己評価	
合計			30	75									注:授業中の行動の観察は全単元に共通している。